

「バリアフリーは今より良くなる!!？」を実現するために必要な7つの基準

2018年7月24日

愛知県重度障害者の生活をよくする会

NPOちゅうぶ(石田)

—新技術に求められることは、「エレベーターと同等の利便性、安全性を持つ」ということ—

① 誰もが乗れる

×手動車いす利用者だけ乗れる。ベビーカーや電動車いす、体の弱い人だと乗れない…では困ります。

② 誰もが簡単に使える

×専門のスタッフしか操作できない…では困ります。

③ 一般の人(健常者)の移動と同じような時間で移動できる

×装置の乗り降りも含めて2倍、3倍も時間がかかるようでは困ります。

④ たくさんの利用が連続してできる

×例えば、車いす利用者が5人一度に来られると利用できない…とかだと困ります。

⑤ 一般の人の移動と対立しない

×新技術を使っている間は一般の人の移動はできない…だと困ります。

⑥ 天守閣の最上階まで上がれる

×今でも5階(最上階は7階)までバリアフリーなので、今より悪くなるのは困ります。

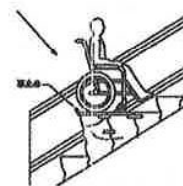
⑦ 怖い思いをしなくて乗れる

×乗るのがちょっと怖い、では困ります。遊園地のアトラクションではないので。

名古屋城は不特定多数の観光客が利用する公共の建物であり、かつ、名古屋、日本を代表するもの。2020年のオリンピック、パラリンピック開催もあり、国連の障害者権利条約や今春改正されたバリアフリー法、障害者差別解消法を踏まえてほしい。安全性はこうした新築の公共の建物では当たり前のことだが、バリアフリー設備としては人よってのイメージや規準に差があるように見受けられる。しかし名古屋城はこれからのインクルーシブ社会の象徴であり、学びの場ともなる。修学旅行で一緒に行った障害児だけが下で待っている…そんな悲しい場面は見たくない。

●これまでの苦い経験 (いろんな新技術があった)

「車いす対応エスカレーター」



駅のエレベーター設置がほとんど進まなかった1980～90年代に車いす対応エスカレーターが活躍した。当時としては画期的な新技術だったのだろうが、課題がいくつもあり、エレベーター設置後はほとんど使われなくなった。(エレベーターが使えない時の代替手段としては意味があります)

一番の課題は車いす対応エスカレーターを使う人と一般の人の対立構造を生んでしまうこと。大阪でもあちこちに設置されていたがJR天王寺駅での風景が忘れられない。この機械を使うときには車いす対応モードに切り替える必要があり、一般の利用は一旦止めることになる。駅員が二人は必要で、車いす一人でも5分から10分程度かかる。天王寺で関空から来た大きな荷物を持った客が、エスカレーターがあると思っているとエスカレーターが使えない。みんなの注目を集めながら車いす利用者が音楽の流れる中をエスカレーターで上下する。「車いすのせいでエスカレーターが使えず、重い荷物を持って階段を上がらないといけない…」辛い顔をした一般乗客の顔を見るのはこちらも辛かった。エスカレーターが10分程度は使えなくなるので「ちえっ…」と舌打ちする人も多かった。車いす以外のベビーカーなどは使えなかったし、大型の電動車いすなども利用できず、駅員も2人必要でとても使いづらかった。

「リフト付きバス」

これも当時としては画期的な新技術だった。今ではノンステップバス・ワンステップバスが普及し、見ることがなくなった。一番の問題は、車いす利用者は利用出来たが、ベビーカーや松葉杖の人などはほぼ利用出来なかったこと。運用の問題でもあるが、リフトの操作は時間もかかるため柔軟な運用は難しかったと思う。手押し車を使う障害者、高齢者でリフト付きバスの利用を拒否される事例が相次いだ。バスの床の高さまでの上下は少し怖さもあり、リフトの乗降にも時間がかかった。



「階段昇降機」

エレベーター、エスカレーターも無い駅で今でも使われている。キャタピラタイプとエスカルのように階段壁に固定された装置を使って斜めに上下するタイプがある。

どちらもかなり時間がかかるが、特に前者(商品名はチェアメイト等)では、大きな課題がある。

まずは「怖い」ということ。斜めの階段を水平に上下するために、初めと最後の水平の時は45度近く斜めになる。そのあとキャタピラで階段を進むのだが、怖くて二度と乗りたくないという人もいる。すべてで数段落ちる時もあり、大きな事故も起こしている。またかなりの時間がかかり、車いすが複数だと10分～30分かかり、かつ、充電が切れて途中で止まってしまう可能性もある。あくまでエレベーターが設置できない場合の緊急避難的な設備である。エスカルタイプは、安全性は高いが時間はかかり、車いす以外ではほぼ利用出来ない。エレベーターの利便性とは比べ物にならない。ちなみに大阪のスカイビルの屋上庭園は当初、階段のみでキャタピラ式の階段昇降機だったが、障害者団体の要望もあり、エレベーターが設置された。

「閉鎖型エレベーター」

現在は新幹線ホームでの荷物用エレベーターなどで残っているが、かつて駅のエレベーターはほぼ閉鎖型であり、駅員が鍵、暗証番号で操作するタイプだった。駅員にいちいち申し出ないと利用できず、ほぼ車いす限定だった。今では信じがたいが駅員のミスでエレベーター内に閉じ込められる事件が何度も起こった。一般の人がまったく使わないため、閉じ込められても発見は数時間後だったりしていた。

過去にあった「新技術」の評価も参考にしてほしい。